

国際シンポ

国連の機能強化を

サミットへ課題提起

沖縄サミットを記念した国際シンポジウム「21世紀の展望―対決の世紀を超えて―」主催・国際交流基金、共催・沖縄県、県サミット推進員会議、沖縄タイムス社など）は最終日の二十七日、那覇市内のホテルで三セッションに分けてパネルディスカッションを行った。この中で沖縄サミットに対して戦略的な文明比較研究所の沖縄設置、国連の権限拡大、軍縮、環境問題

への積極的な取り組みなどを提起した。
（詳報は7月1日に掲載）
カール・カイザー（ドイツ外交協議会長、ジエームズ・メイヨール（英国ケンブリッジ大学教授、小和田恒（日本国際問題研究所理事、山崎正和（劇作家、東亜大学長）、エドガー・モラン（社会学者、フランス）ら八氏が出席。
第一セッションのテーマは「世界戦争の時代のあと

に」国家、社会、個人のあり方。二十世紀が対決、対立の時代だった反省をもとに国際紛争の予防策や新たな秩序の確立などについて討議した。
世界各地で依然多くの紛争が続いているもの、各氏は「平和への流れは着実」の共通認識を示した。その一方で、グローバル化によって相互依存が強まり、地域紛争や犯罪が地球規模に拡大しやすくなって

いることを指摘し、「国連など超国家的な機関の機能を強化する必要がある」と提言した。
第二セッション「ポスト産業社会の挑戦」より豊かで公正な地球社会を求め「では人類の貧困の克服と、より豊かで公正な社会を実現するには何が必要かについて語り合った。
「自由市場は富を再配分する義務がある」とした上で、格差是正のためには、グ

ローバルな世界政府」の必要性和新しい市場原理の拡大、さらに「貧困を救う」という意識ではなく、地球を救うために「援助」がある

と認識を持つべきだ」との指摘が挙がった。
「対決の世紀を超えて」多様な世界の普遍的価値をテーマにした第三セッシ

ョンは二十一世紀の価値観の在り方について論じた。この中で各氏は「さまざま価値観を尊重しつつ、普遍的な価値観にしなければ

ならない」と提起し、「普遍的価値は常に説明し続けることが求められ、特に知識人には説明責任がある」とした。

6月26・27日 ロワジュールホテルオキナワ

九州・沖縄サミットを記念した国際シンポジウム「21世紀の展望―対決の世紀を超えて―」(国際交流基金主催、琉球新報社共催)が六月二十六、二十七の両日、那覇市内のロワジュールホテルオキナワで開かれます。世界規模の戦争の危機は去った一方で、地域紛争や世界の安全と平和を脅かす問題は依然として残っています。またグローバル化が進展する21世紀の社会において人類が貧困を克服し、



平和的に共存していくためには国際的に共通する価値観や規範が求められる半面、文化的伝統や社会の多様性を維持することも必要になってきます。国際シンポジウムでは21世紀に向けてサミット参加国や国際社会、NGO、個人の在り方、宗教、芸術、学術、教育に求められる役割について未来志向的な論議を行います。日・英・仏同時通訳付き。(入場無料)

九州・沖縄サミット記念

国際シンポジウム「21世紀の展望」

―対決の世紀を超えて―

◆日時 6月26日(開
会式、基調講演)午後
3時~同5時
6月27日(シンポ)
午前10時~午後6時
◆場所 ロワジュール
ホテルオキナワ
◆出席 エドガー・モ
ラン(仏、社会学
者)、ミッシェル・ア
ルペール(仏、フラン
ス銀行通貨政策委
員)、カール・カイザ
ー(独、外交政策協会
研究所長)、シエーム
ズ・メイヨール(英、
ケンブリッジ大学教授
・国際関係論)、小和
田恒(日、日本国際問
題研究所理事長)、ヘ
ンリー・ロンフスキー
(米、ハーバード大学
名誉教授・経済史)、
山崎正和(日、劇作家
・東亜大学長)、司会
進行は高島肇久(NH
K放送総局特別主
幹)。またネルソン・
マンデラ(南ア前大統
領)、緒方貞子(国連
難民高等弁務官)の両
氏はビデオ出演(以
上、敬称略)
◆主催 国際交流基金
◆共催 沖縄県、県サ
ミット推進県民会議、
琉球新報社ほか

